

農-1 大学と農家の意見交換会（地域連携による農産物づくりの検討等）

■ 計画概要

概要・目的		概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地元農業者を対象に、明治大学黒川農場の見学会を実施し、大学の教職員に施設や大学の取り組み、研究内容等について紹介を行う。 ・大学と地元農業者の相互の取り組みに関する情報交換を行い、今後の黒川地域の野菜づくり等への連携につなげる。
		目的	<p>【地域交流】明治大学黒川農場での取り組み等を紹介してもらう見学会を実施し、地元農業者と大学関係者の交流を深める。</p> <p>【地域連携の強化】黒川産の農産物の販売促進のため、地元農業者と大学が新規農産物や郷土農産物の栽培方法等について情報交換する機会を設け、地域連携の体制を強化していく。</p>
実施体制、対象者等		対 象：地元農業者、明治大学 事務局：川崎市農地課	
実施内容	実施予定日	未定	
	実施場所	明治大学黒川農場	
	周知・PR	—	
	内容	<p>①明治大学黒川農場の施設紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川農場の施設を紹介。 <p>②研究活動内容や研究成果の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川農場で行っている研究や取り組みの紹介 <p>③明治大学教員と地元農業者による意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の、農産物等の生産に関する連携等について 	
	予算等	—	
その他		・今後も大学と農家の意見交換の場を検討してく。	

農-2 アスパラガスの新たな栽培方法「採りつきり栽培」の実施

(地域連携による農特産物づくりの検討等)

■ 計画概要

概要・目的		<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規ホーラーを使用し、一作で採りきる「採りつきり栽培」の展示ほ場を作り、栽培講習会を行うなどし、新たな特産物・収穫体験としての可能性を検討する。 <p>目的</p> <p>【地域交流】明治大学の研究成果を活かしながら、大学と地元農業者の交流を深める。</p> <p>【地域連携の強化】地元農業者と大学が農産物の新たな栽培方法等について情報交換する機会を設け、地域連携の体制を強化していく。</p>
実施体制、対象者等		<p>対 象：地元農業者、明治大学</p> <p>事務局：川崎市農地課</p>
実施内容	実施（予定）日	<p>平成 29 年 巡回検討会 4月13日、6月6日、7月10日 8月7日、8月25日、9月26日、11月7日 実施</p> <p>平成 29 年 病害虫講習会 6月6日 実施</p> <p>平成 29 年 栽培講習会 12月11日 実施</p> <p>平成 30 年 収穫物（目揃え会）講習会 3月12日</p>
	実施場所	黒川地区全域（展示ほ場：黒川上地区）
	周知・PR	黒川生産支部回覧板
	内容	<p>①栽培講習会の実施</p> <p>②見本畑設置、栽培実習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川地区に見本畑を設置し、栽培を実習できる機会を設ける。 ・アスパラガスの苗を地元農業者に配布し、自ら実際に栽培管理を行う。
	予算等	—
その他		—

■実施結果

実施概要	実施日時	平成 29 年 4 月 13 日、6 月 6 日、7 月 10 日、8 月 7 日、8 月 25 日、9 月 26 日、11 月 7 日
	実施場所	黒川地区全域（展示ほ場：黒川上地区）
	参加者数	
実施状況 (写真等)	<p>〔明大農学部 元木悟准教授、川崎市都市農業振興センター職員対応〕</p> <p>平成 29 年 4 月 13 日 生育状況を確認。肥培管理・防除等を指導</p> <p>平成 29 年 6 月 6 日 生育状況を確認。肥培管理・防除等を指導</p> <p>平成 29 年 7 月 10 日 生育状況を確認。肥培管理・防除等を指導</p> <p>平成 29 年 8 月 7 日 生育状況を確認。肥培管理・防除等を指導</p> <p>平成 29 年 8 月 25 日 生育状況を確認。肥培管理・防除等を指導</p> <p>平成 29 年 9 月 26 日 生育状況を確認。肥培管理・防除等を指導</p> <p>平成 29 年 11 月 7 日 台風の影響を確認。対応を指導</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月の台風の後、他作物への対応が忙しく、アスパラガスの防除が遅れ病気が出てしまった。 ・ 基準とされる畝間で定植したが、予想以上に生育が旺盛だったので、次作は広げたい。 ・ 次作は栽培面積を広げたい。 ・ 次作の栽培は見合わせる。 ・ 次作は色々な品種を栽培し、品種特性、収量等を比較したい 	
評価と今後の進め方 等 (専門部会での検討事項)	今年 3 月～4 月の収穫に向けて技術指導を行う。次期栽培株数は今期より 1000 株増加。次年度以降の技術指導については要検討。	
その他	黒川生産支部との共同開催	

農-3 農産物に関する講習会の開催

■ 計画概要

概要・目的		<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品種比較、土づくり、防除等栽培に役立つ講習会を、大学と連携して開催する。 <p>目的</p> <p>【地域交流】 明治大学の研究成果を活かしながら、大学と地元農業者の交流を深める。</p> <p>【環境保全】 農薬を効果的に使う方法を学ぶことで、環境にやさしい農業の実現を目指す。</p>
実施体制、対象者等		<p>対 象：地元農業者、明治大学</p> <p>事務局：川崎市農地課</p>
実施内容	実施予定日	平成 29 年 6 月 6 日、12 月 11 日 実施 平成 30 年 3 月（予定）
	実施場所	黒川公会堂
	周知・P R	黒川生産支部回覧板
	内容	①講習会の開催
	予算等	—
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も内容を検討して、講習会の実施を検討する。

■実施結果

実施概要	実施日時	平成 29 年 6 月 6 日、12 月 11 日
	実施場所	黒川公会堂
	参加者数	6 月 6 日 25 人 12 月 11 日 29 名
実施状況 (写真等)	<p>平成 29 年 6 月 6 日 病害虫防除講習会 (黒川農業者 15 人、関係者 10 人参加) 講師 元木悟(明大農学部准教授)、大学院学生 川崎智弘(種苗会社担当)、 鈴木仁(生分解性ネットメーカー担当)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
	<p>平成 29 年 12 月 11 日 栽培講習会 (黒川農業者 16 人、関係者 13 人参加) 講師 元木悟(明大農学部准教授)、大学院学生 川崎智弘(種苗会社担当)、 田中俊光(商事会社担当) 矢崎友嗣 (明大農学部専任講師)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の特定、対応方法等を知ることができた。 ・台風の後の対応の大切さを学ぶことができた。 ・予想以上に多肥栽培しても大丈夫なことを確認できた。 ・いろいろな販売方法があることを知ることができた。 	
評価と今後の進め方 等(専門部会での検討事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も内容を検討して、講習会の実施を検討する。 	
その他	—	

農-4 地元農業者との農産加工品等に関する検討

■ 計画概要

<p>概要・目的</p>	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元農業者等を対象に、農産加工品開発及び販売に向け、意見交換会や講習会等を行う。 ・黒川地域の加工品を PR する。 <p>目的</p> <p>【地域交流】 明治大学の研究成果を活かしながら、大学と地元農業者の交流を深める。</p> <p>【黒川産商品開発】 黒川地域の活性化に向けて、黒川産の農産加工品の開発を検討する。</p>	
<p>実施体制、対象者等</p>	<p>対象：地元農業者、明治大学 協力：神奈川県、セレスモス 事務局：川崎市農地課</p>	
<p>実施内容</p>	<p>実施予定日</p>	<p>11月11日（土）収穫祭 加工品のPR</p>
	<p>実施場所</p>	<p>明治大学黒川農場</p>
	<p>周知・PR</p>	<p>－</p>
	<p>内容</p>	<p>農産物の加工品について全国的に優れた技術を持っている明治大学黒川農場の客員教授である小清水先生と地元農業者との意見交換を実施する。また、黒川産野菜で作った加工品について、セレスモスと連携しながら収穫祭でPRする。</p> <p>①現在の黒川産の農産加工品について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川産の農産加工品の現状や課題等に関する意見交換やPRの実施。 <p>②今後の開発の可能性やメニューについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の農産物加工品の開発の可能性や、やってみたいメニューについて意見交換し、試作の検討。 <p>③今後について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の進め方等に関する意見交換
<p>予算等</p>	<p>－</p>	
<p>その他</p>	<p>－</p>	

■実施結果

実施概要	実施日時	平成 29 年 11 月 11 日
	実施場所	明治大学黒川農場
	参加者数	—
実施状況 (写真等)	<p>平成 29 年 11 月 11 日に開催された明治大学黒川農場収穫祭にて、ジャム等の販売を通して、農産加工品の P R を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>■農産加工品の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うめぼし ・ジャム（梨、イチゴ、リンゴ（紅玉）、ゆず、カシス、イチジク etc） 	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・「セレスモス」と協力し販売を行い、加工品の P R ができたと感じる。 ・加工品の販売は、パン類の影に隠れてしまったようだ。 ・黒川農場も加工品を販売していた。両者がともに P R できればより良いと感じた。 	
評価と今後の進め方 等（専門部会での検討事項）	<ul style="list-style-type: none"> ・加工品の販売については工夫を要する。 	
その他	—	

農-5 黒川野菜・果物等のPR（農家による黒川野菜の直売の実施）

■ 計画概要

概要・目的	概要	・ 明治大学黒川農場の収穫祭で、大学と地元農業者が連携して野菜を販売し、黒川産の農産物のPRを行う。
	目的	【黒川農産物のPR】黒川地域の活性化に向けて、黒川産の新鮮な農産物をPRし、販売促進につなげる。 【地域交流】農家と直接お話しをしながら、野菜を買いいたいという意見が前回の収穫祭ででていたため、地元農業者が直接販売する機会を創ることで、市民と地元農業者との交流を図る。
実施体制、対象者等	主催：地元農業者 協力：明治大学 対象：明治大学黒川農場収穫祭の来場者 事務局：川崎市農地課	
実施内容	実施予定日	平成 29 年 11 月 11 日（土）収穫祭
	実施場所	明治大学黒川農場
	周知・PR	・ 市政だより、HP等 ・ 明治大学収穫祭告知チラシ、HP等 ・ HP等
	内容	収穫祭にて「農家さんの黒川産農産物の直売所」として、地元農業者による来場者への直接販売 ■ 農産物の種類（案）昨年度実績 <ul style="list-style-type: none"> ・ダイコン ・キュウリ ・ピーマン ・万願寺トウガラシ ・甘長トウガラシ ・コマツナ ・ハクサイのぬき菜 ・サトイモ ・カキ ・本ユズ ・キウイフルーツ ・たまご ・お米 <p>(平成 27 年度：14 品目 660 点) (平成 28 年度：13 品目 300 点以上)</p>
	予算等	－
その他	－	

■実施結果

実施概要	実施日時	平成 29 年 11 月 11 日
	実施場所	明治大学黒川農場
	参加者数	7人(地元農業者 5 人、都市農業振興センター農地課職員 2 人)
実施状況 (写真等)	<p>平成 29 年 11 月 11 日に開催された明治大学黒川農場収穫祭にて、「農家さんの黒川産農産物の直売所」として、地元農業者による来場者への直接販売をした。</p> <p>収穫祭来場者 1,786 人（前年度 1,761 人）前年比 101%</p>	
	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div> <p>■農産物の種類（平成 29 年度：12 品目 250 点以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大根 ・かぶ ・きゅうり ・原木しいたけ ・ピーマン ・里芋 ・ブロッコリー ・次郎柿 ・本ゆず ・キウイフルーツ ・たまご ・サツマ芋 	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の影響で野菜の数が少なかった。 ・農場内の収穫体験の野菜と重複が見られた。 ・コンサートが始まると、場内来場者は少なくなった。終了後、ほ場側階段から下りるような案内があると、販売テント前を通過するようになり、よりPRにつながるのではないかと感じた。 ・3時以降に来場者数が極端に減り、販売に苦労した。 	
評価と今後の進め方等 (専門部会での検討事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回で4回目の参加。今後も継続して参加することで、黒川産の新鮮な農産物をPRし、販売促進につなげる。 	
その他	—	